

RKK Group Magazine りゅうかい

RYUKAI

RKK

2019 No.290

夏季号



夢とくらしと文化をはこぶ



琉球海運株式会社

琉球海運グループ

沖縄港運(株)
(株)沖縄輸送サービス

宮古港運(株)
(株)九州輸送サービス

八重山港運(株)
(株)きょうはい

沖縄荷役サービス(株)
国際輸送(株)

(株)沖縄急送
琉海リース(株)

トップ エッセイ

デジタル時代 に対応する

株式会社 九州輸送サービス

常務取締役 西岡 都毅



デジタル時代の代名詞といえ、この十年進化し続けているコンピュータ機能を併せ持った携帯電話、スマートフォンだと思う。

(iPhoneを含む)

私は自慢じゃないが、まったく言っていない程、使えない熟すことができていない

に熱中している時の脳の状態は、覚醒剤を使用した時と同じことが脳の中で起きていると言われている、想像以上に有害であることは間違いない。

そして、交通安全においても悪影響がある。以前、私が狭い道路を運転中、前方から女子高生が自転車スマホで向かってきた。危険と判断してその場で停車したが女子高生は私に気づかない。仕方がないので警笛を鳴らしたその瞬間、驚いた顔で私の車を回避した後、鬼のように睨んで立ち去ってしまった。昔だったら、私に対して会釈するなどの謝意を表す場面であったと思うが、後にも先にも女子高生に睨まれたのは初めての経験である。(時代の変化を感じた瞬間)

素人である。そうは言っても、スマートフォン(以下スマホ)が世に出現した頃は興味もあり、これからの時代に必要不可欠なアイテムであることも十分に理解していた。しかし、今となっては扱いにくい天敵になってしまっている。

さて、スマホ嫌いな私でも、唯一便利だと思っている機能がSMS(ショートメッセージサービス)である。用件を一方的に短く伝えることができるので大変重宝している。(結局私は、ガラケー世代から脱皮できずに足踏みしていると思われる。)

しかし、最近改めてスマホ嫌いのままでよいのか? 自問自答するようになってきた。

きっかけは、今年五月から電車通勤を始めたことによるもので、三十数年ぶりである。朝の通勤ラッシュでもそうだが、特に帰宅時間の電車内、八割程度の人々がスマホを使用している。昔は新聞や雑誌を読む光景だったが、精々二割程度だった。それが乗車している

何故か?まず考えられるのはスマホ特有の用語が肌に合わない事である。アカウント、アプリ、アドオン、ストレージにデバイスなど言えばきりが無いが、用語が訳分からぬ。ダウンロードとインストール、違いって何?周囲の人に聞

人の大半がスマホを見ている。異常な光景だと思いがらもこれがデジタル時代なのかもしれないと感じる。いったい何を見ているのか?気になる。覗き見をして変な誤解を与えることにならないように注意しながら観察する。結果は、グルメ、ファッション、装飾品、旅行などの閲覧やゲーム、電子書籍(漫画)、ニュースなどの情報、動画や写真、若い人はFacebookやLINEなどのコミュニケーションツールを利用してはいるようである。

電車通勤を始めて二ヶ月が経過した。毎日スマホを利用してはいる人々の光景を眺めていると、スマホを積極的に利用していない自分は、まさに劣等生である。

いてはすぐに忘れ、また尋ねる。覚えきれないこと自体、才能がない。

次にスマホ依存も気になるところである。不眠症、ブルーライトという有害な光による自律神経の乱れ、視力の低下、依存症になってしまうとスマホでゲーム

最近ビジネスに役立つアプリも開発されている。また、スマホの電源を切った状態での生活実験では、生産性が三分の一に低下するとの報告もある。スマホを利用したキャッシュレス時代も間近だ。今後益々進化するスマホは生活必需品になるであろうが、依存症などの健康被害が解決するかどうかは分からない。使う人間にも同調した進化が必要である。それがデジタル時代に対応することだと思う。

最近、ゴルフのラウンドデータをスマホで分析できるアプリを発見した。まずは趣味の中から始めようと思う。



琉球海運(株)

「第63回沖縄タイムス賞」に決定

7月1日(月)、「第63回沖縄タイムス賞」の贈呈式と祝賀会が、ザ・ナハテラスで開催されました。琉球海運(株)は、「海運業を通して県民の暮らしと物流を支え経済振興に貢献した」として、産業部門での表彰となりました。当日は受賞者5個人と1企業を代表して宮城社長による挨拶があり「これからもより県民の皆様に貢献できるよう努めていく」と述べられました。



表彰状を受け取る宮城社長



受賞者の皆様、おめでとうございます

※写真は沖縄タイムス社様よりご提供

那覇港総合物流センター 内覧会

4月25日(木)、琉球海運(株)が代表企業を務める那覇港総合物流センターの内覧式が行われました。

那覇港総合物流センターは鉄骨三階建て、敷地面積約七千九百坪、倉庫は常温、冷蔵、冷凍(-60℃から+5℃まで)の3温度帯に対応しており、多様な保管機能を揃えています。

今回、超冷凍庫で-60℃を体感しましたがわずか1分でも身を刺すような寒さを感じ、-25℃が暖かく思えるほどでした。

内覧会終了後は沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて開設記念式典が挙行され、当社の宮城社長による挨拶、鏡開きが行われました。

那覇港総合物流センターは令和元年5月1日より稼働を開始しております。



超冷凍庫内(-60℃)、総務部山入端の吐息もそばから凍り付く寒さです…



沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて

琉球海運(株)

博多港安全講習会を開催

6月17日(月)、福岡沖縄定航連絡会で博多港安全講習会を開催し、沖定会6社、総勢22名が出席しました。

「安全に対する意識向上と知識共有を図り、事故のない安全な職場環境作りにつなげること」を目的として行われた講習会は、日本通運の坂田技能長と清原指導員に講師を務めて頂き、トレーラーとフォークリフトの特性や死角などの危険ポイントについてや、船内誘導員の重要性を主に講習が行われました。

講義終了後はわかなつ船内に移動し、実際の作業を見ながら危険ポイントの確認、実際にフォークリフトに乗車し、コクピットからの視野範囲、死角を体感しました。フォークリフトコクピットからの視界は思った以上に狭く、死角も多く感じられ、周りの人間もかなり気をつけないと危険ということが改めて理解でき、良い経験となりました。

福岡では、今後も安全職場、事故0に向けて講習会を開催していきます。

ご安全に！

参加会社

日本通運(株)博多港支店
共進組 福岡営業所
博多港運(株)
(株)シーゲートコーポレーション福岡支店
(株)九州輸送サービス
琉球海運(株)福岡支店



講習会の様子



わかなつ船内

八重山港運(株)

令和元年度 社内安全衛生大会

6月17日(月)に弊社二階会議室にて、社内安全衛生大会を行いました。各部署より選ばれた代表者が日頃感じている危険箇所やヒヤリハット、また体調管理の大切さ等の発表をし、村山安全衛生推進室長による安全講話、また、熱中症対策DVDを視聴しました。

日頃の業務の中で、ミーティングや指さし唱和等により安全確認を行っていますが、ふと集中力が途切れた時、不安全要素により事故は起こる可能性が高くなります。また、夏の時期を迎えるにあたり熱中症に対する対策は一人一人が行わなければなりません。どうか皆様も自分自身だけではなく、周りの方を観察できる余裕を持ち、互いに助け合いこの夏を乗り切りましょう。

RKKグループ各社の皆様、どうかご安全に！



総務部 山城

第24回功労・功績・優秀作業員表彰式

7月5日(金)沖縄港湾労働者福祉センターにて、港湾貨物運送事業労働災害防止協会主催の優秀作業員表彰式が行われました。

沖縄港運(株)・沖縄荷役サービス(株)・八重山港運(株)より、以下の方々の受賞がありました。おめでとうございます。

荷役機械運転優秀賞

➡荷役機械有資格者運転手で、満10年以上無災害の者

沖縄港運(株)	作業一課	高良乾	(揚貨装置運転士)
沖縄港運(株)	機材課	鉢嶺元志	(フォークリフト)
沖縄荷役サービス(株)	現業課	阿部美晴	
八重山港運(株)	集配課	上地博	(整備管理者)

玉掛作業員優秀賞

➡玉掛作業有資格者で、満15年以上無災害の者

沖縄港運(株)	作業一課	吉村尚康
沖縄港運(株)	作業二課	比嘉直人

無災害記録事業場

沖縄港運(株)	第2種	154万3千時間
沖縄荷役サービス(株)	第4種	81万2千時間



受賞者全員での記念撮影



荷役機械運転優秀賞(阿部美晴)



沖縄港運(株)



沖縄荷役サービス(株)

(株)沖縄急送

第9回パートナー会議開催

5月31日(金)第9回パートナー会議を開催しました。本会議は、沖縄急送運輸部が主催し、日頃当社の集配業務にご協力頂いている各協力会社の経営者及び運行管理者と弊社運輸部役員・管理職にて構成されます。今回は、当社を含め14社26名の参加となりました。

議題・目的として“輸送品質の向上”、“輸送・車輛事故等の事故事例と対策”、“乗務員不足問題対策”等、多岐にわたり議論されます。

協力会社との信頼関係を更に深め、琉球海運グループの沖縄本島の足回りを強化できるよう努めて参ります。

運輸部長 普久原



会議中の様子



お疲れ様でした

沖縄荷役サービス(株)

札幌営業所移転のご挨拶

6月19日、札幌営業所が新しい事務所へ移転をいたしました。

移転先の事務所は、札幌冬のイベント「さっぽろ雪まつり」会場の大通公園に程近く、すすきの交差点までも徒歩圏内の立地です。ビジネスも観光にも大変便利な場所にありますので、札幌にお越しの際はぜひお立ち寄りください！

7月4日に、社長始め役員が札幌営業所に赴いて事務所開きを行い、本格的に業務をスタートいたしました。年々、北海道から本州、沖縄に向けた貨物輸送の需要が高まる中で、我が札幌営業所の業務拡大は急務としているところです。

新しい環境で心機一転、日本の北から南へ皆さまのご期待に添えますよう、職員一同頑張っております！



商売繁盛と無事故安全を祈願して



撮影は佐藤取締役部長です！

琉球海運(株)

ゆがふ製糖(株)見学会

4月11日(木)に琉球海運の営業部・企画部・総務部から総勢6名でゆがふ製糖株式会社へ合同工場見学に行ってきました。

最初にゆがふ製糖の砂川様から会社概要および現在の製糖状況などの説明をしていただいた後、実際に工場内を見学しました。工場内へトラックで運ばれてきたさとうきびが細断、清浄し濃縮されていき原料糖が製造されていく過程を直に見ることができました。きびの品質検査や糖度測定の様子を見学したり、濃縮された糖汁を手にとってみたりと新鮮な体験が出来ました。

今回、この工場見学で地場産業である製糖業やさとうきびに対する認識が深まり大変貴重な機会となりました。

このお忙しい中ご丁寧に説明して下さったゆがふ製糖の方々に改めてお礼申し上げます。



琉球海運(株)

琉球大学講演会

5月21日(火)琉球大学にて、琉球海運(株)特別顧問の寺内昌弘氏による講義が行われました。今回の講演会は琉球大学の特別講義ということで二十名余の学生の参加のもと行われました。「貨物船と海運業」をテーマに、約一時間半行われた講義では、海運業で使われる用語の説明やRORO船やフルコンテナ船、RASH船といった船舶の紹介等があり、海運業について知見が深まる内容でした。

また、6月4日(火)には琉球海運(株)常務の宮城勝氏による特別講義が同じく琉球大学にて行われました。宿泊施設の増加やコンビニエンスストアの進出など、現在の沖縄県を取り巻く状況にも触れつつ、琉球海運の役割や本土ー沖縄間の物流についてわかりやすく説明して下さいました。

学生の皆様からも多くの質問や意見があり、聴講した新入社員も海運業について理解を深める貴重な機会になりました。また、これを機に琉球海運に興味を持ってくれる学生が増えてくれると嬉しいです。

講義をしてくださいました寺内特別顧問並びに宮城常務、ありがとうございました。



講義を行う寺内特別顧問



学生からの質問に応じる宮城常務

琉球海運(株)

70周年ブランディングプロジェクト発足

7月17日(水)琉球海運70周年記念事業に向けたブランディングプロジェクトが発足しました。当日は宮城常務の挨拶から始まり、コンサルタント会社様よりプロジェクトの進行説明や事前の講義が実施され、参加メンバーでディスカッションが行われました。

このプロジェクトでは、70周年記念事業における琉球海運ブランドの構築に向けてブランディング戦略の基本方向を明確にしていきます。ブランディングでは社会を取り巻く環境変化が激しい現代において、企業のブランド価値の向上を図る事により、価格や機能ではなく「価値」で選ばれる会社を目指していきます。来年の70周年に向け、約1年をかけて琉球海運の企業ブランドを明確化し、記念ロゴの作成、記念ブランドムービーやブランドブック等を作成し社内外へ発信していきます。

こうした取り組みを通じて、経営体質そのものが改善され、やがて企業価値の向上に繋がっていくことでしょう。70周年は元より、100年企業に向けたブランド作りを推進するため、皆様のご協力をお願い致します。



ディスカッションの様子

宮古港運(株)

～令和初 海神祭～

6月9日(日)令和初の海神祭(爬龍船競漕大会)が今年も荷川取漁港にて開催されました。開始前に漁港内の拝所にてチーム全員で“航海安全”、“豊漁”を祈願し、いざ会場入り。船主組合による奉納レースで始まり、レース本番です！

毎年、優勝候補に挙げられる宮古港運チームですが、今年のチームはベテランの舵取りが怪我で参加できず、急遽新人の舵取りで出場。練習も仕事の都合上2日しかできず、少々不安な参加となりました。

自治会・青年会・地域企業などの総勢19チームによるトーナメントの一回戦、緊張の中スタート。「ゴーヘイ」の掛け声のもと、力強い櫂捌きでゴール前まで大接戦！写真判定？の結果、惜しくも第2位となり敗者復活戦へ。

このままでは終われないと、チーム再団結し「宮古港運アララガマ魂」で敗者復活戦をどんどん勝ち上がり、なんとなんと決勝戦へ進出！

いよいよ決勝戦、意気上がる中一糸乱れぬ櫂捌きでスタート！…ところが、練習不足と敗者復活戦によるスタミナ切れで大失速……力尽きて第3位で終了。

閉幕後はいつもお世話になっている居酒屋で慰労会&反省会。お酒が入って調子が出てくるとスタミナ再復活！

「来年は優勝奪還だ一、オトーリ回しまーす」の挨拶で雪辱に燃えるメンバーでした。

営業部 恩河



アララガマ魂！お疲れさまでした！

那覇ハーリー

5月5日(日)「第45回那覇ハーリー」に出場しました。毎年恒例となっておりますが、新入社員の方たちも初めての参加となり、若々しいフレッシュなグループでの出場となりました。今年是对戦相手となる企業が一組欠場となり、糸満市の宇那志豆腐店との一騎打ちの戦いとなりました。

気になる結果は…2位でのゴール！2組中2位という結果となりました。今年は参加人数が少なかったこともあり、急遽応援に来てくれていた職員たちを巻き添えにしての参加となりましたが、一生懸命太陽の下で漕いでいただきました！

レース終了後は恒例のバーベキュー！疲れた体に栄養補給です。いつもは健康のことを考えて野菜ばかり食べている役職員も、今日ばかりは肉祭り！たらふく美味しく頂きました。

毎年宣言していますが、来年こそは！来年こそは！！決勝進出を目指します。

参加された方、応援にきてくれた皆様、ありがとうございました。



バーベキュー！



沖縄産いちご 収穫体験

2月2日(出)日立トリプルウィン(株)様が所有する、読谷村宇座の事業現場にて農作物の収穫体験をさせていただきました。今回は琉球海運本社から8名の職員が参加し、ハウスにてイチゴの収穫をおこないました。

「沖縄でイチゴを収穫？そもそも沖縄でイチゴ栽培は出来るの？」

亜熱帯気候である沖縄でのイチゴ栽培は難しいと言われていたのですが、今回ハウスでの実証実験の生産品種である「夏秋いちご」は、まさに暑さに強い品種で、この沖縄でも品質の良いイチゴの生産が可能となっています。

ハウス内は衛生面が徹底されており、手洗い・手ふき・マスク・消毒という一連の流れをおこなう必要があります。生食することが多いイチゴの栽培にとって、衛生環境はとても大事であり、消費者である私達にとっても衛生面は安心できる要素となります。空調調整・IoTを利用した環境計測による温度管理・温度調整をおこなうための遮光カーテンの設置、栽培工程で腰に負担のかからない苗の高さの調整はもちろんのこと、ハウス本体の構造も軽くて強い素材を使った耐候性ハウスを使用し、台風の多い沖縄にも対応した造りになっています。



手洗い・マスクは徹底！



収穫の際の注意点はよく聞きましょう！



ミツバチによる受粉がおこなわれています

収穫中、イチゴひとつひとつがとても繊細で他の果物と比べて一個が小さい分、作業の慎重さがとても大事だと感じました。その分、味は抜群にうまい！一粒一粒に味が凝縮され、一口味わう毎に口の中で甘みとほのかな酸味が広がり、そのバランスがちょうど良い！思わず二個食いもしてしまいました…。

「持続可能な農業生産活動」を実現するための生産工程管理の国際基準である、グローバルGAPの認証も取得しており、今後さらなる発展が期待されます。その中で、私たち琉球海運と一緒に県内のみならず、国内外に沖縄県産の美味しいイチゴを届けていける環境を目指していけたらと思っています。

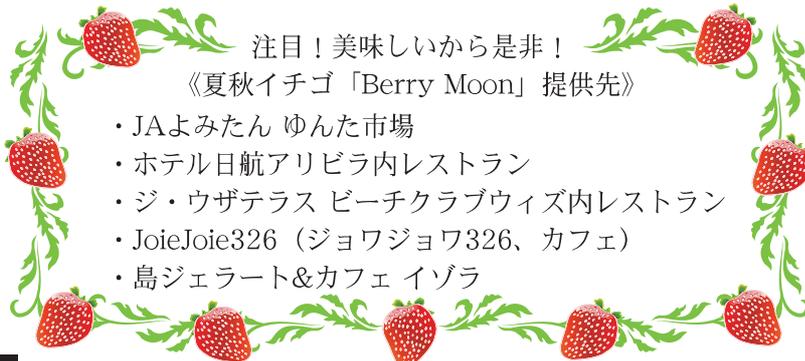
日立トリプルウィン(株)長部様をはじめ関係者の皆様、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。



こんなに多くのイチゴを収穫！



最高！美味しすぎる！なんて日だ！



注目！美味しいから是非！

《夏秋イチゴ「Berry Moon」提供先》

- ・JAよみたん ゆんた市場
- ・ホテル日航アリビラ内レストラン
- ・ジ・ウザテラス ビーチクラブウィズ内レストラン
- ・JoieJoie326 (ジョワジョワ326、カフェ)
- ・島ジェラート&カフェ イゾラ



ぜひ、ケーキも食べてみてください♡



東京支店

四月一日付で東京支店に赴任致しました奈良県出身、オリックスファンの池内陽木です。日々東京の人の多さに圧倒されながら、高層ビルが建ち並ぶオフィス街を颯爽と(内心ビクビクしながら)通勤しております。シテイボーイを目指して奮闘中の私は、本社にて入社以来4年間不定期船航路を担当し、この度東京支店にて初めてのRORO定期船業務をさせて頂いております。

同じ船の営業とはいえ、不定期船と定期船は業務内容が大きく異なっている為、東京支店の優しい先輩方に支えて貰いながら、昼夜を問わず日々勉強中でございます。赴任して早三ヶ月が経ち、少しずつではございますが業務や生活に慣れてきているところです。

不定期船を担当したことで499船乗組員と先島の皆様に鍛えて頂いた船の知識と肝臓を武器に、一日でも早く信頼され、力になれるよう努めて参りますので、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



赴任レポート

鹿児島営業所 石塚 裕也

半年以上が過ぎましたが、昨年十一月一日付で、琉球海運(株)鹿児島営業所へ採用頂きました石塚裕也と申します。

沖縄に約十八年住んでいましたが、今回地元の鹿児島へ戻ってまいりました。鹿児島は沖縄に負けず劣らず食べ物美味しく、つつい食べ過ぎてしまいますが身体の成長は自制しつつ、船会社の職員として日々成長を心がけ精一杯頑張ります。沖縄での経験を生かしながら鹿児島の地より琉球海運グループを盛り上げていければと思っておりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

鹿児島営業所





みなさんこんにちは。台湾事務所の高崎です。今年5月より台湾に事務所を開設し、台湾駐在員として4月より着任しました。

こちらでは、台湾在日系物流企業や商社、船社を訪問し当社の知名度向上に向けてのセールスを行っています。

また、事務所のセールス担当は私一人しかいないため日昼は台北でお客さままわりを、夜は五木大学(林森北路の通称)に通い、土日は高雄で

本船立ち合いと結構ハードな毎日を過ごしており、趣味のゴルフも現在は月2、3回に激減してしまっただけの言うまでもありません。

台湾で生活し始めた頃は、生活環境の違いなどいろいろと戸惑う事も多々ありましたが、今では台湾人に道を聞かれるようにもなり、台湾に同化してきたように感じます。もちろん、中国語はわかりませんので、「對不起！我是日本人」と言って、その場を去るようにしていますが・・・。

慣れない環境であつという間に3カ月がたちましたが、今後も台湾ライフを充実させ、仕事に全力投球できるよう頑張つて参ります。

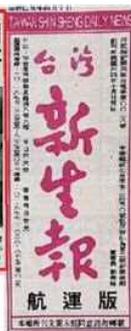
請一定要来台湾！

台湾事務所レセプションパーティー

5月に台湾の台北アンバサダーホテルにて、琉球海運台湾事務所レセプションパーティーが開かれました。

宮城社長は、「台湾から最も近い日本は沖縄であり、将来沖縄・台湾・日本の海運業の発展を強化していけるよう努力を続けていく。また、貨物の需要や状況に基づき、より良いサービスを提供していけるようにしていきたい。」とスピーチいたしました。

「中華日報」「台湾新生報」の新聞記事にも大きく取り上げられました。



台湾出向レポート 真栄平 亮

私は今、台湾・台北市にある沖縄県の外郭団体「公益財団法人沖縄県産業振興公社台北事務所」で、台湾での沖縄観光PRや物産展等のイベント周知、文化交流の促進等の業務を担当しています。

赴任直後は、業務経験は無く、初めての長期海外赴任ということもあり大変苦労しましたが、現地スタッフや駐在員仲間の助けにより、今では楽しく仕事をすることができています。多くの県内企業や台湾行政団体と関わる仕事なので、県内企業のサポート方法や台湾の各団体へアプローチする際には、現地スタッフの力は必要であり、業務を通して、「スタッフの力」の効果を最大限発揮させることが仕事を円滑に進めるためには重要だと強く感じました。現地の文化や考え方、そしてスタッフそれぞれの考え方も十人十色なので、仕事を楽しくするには、現地スタッフとコミュニケーションを深める事は必要不可欠だと一層実感しました。

色々な業務をこなしていく中で、様々な問題にも直面しましたが、その都度、現地スタッフと共に皆の意見を取り入れながら業務段取りに奔走する日々を過ごしました。その結果、それを皆で喜び合えた経験が、仕事の楽しさややりがいにつながっています。

休日の過ごし方は、妻と3人の子供たちと一緒に、家族で過ごしています。私の住む天母という地域は、日本人学校、アメリカンスクールがあり外国人が多く、SOGO・高島屋・三越などの百貨店、陽明山に囲まれており自然がいっぱいです。休日は買物に行ったり、大きな公園で散歩したり、プールに行ったり、子供の好きなミニバイクやリップスティックボードをしに行ったりする事が多いです。最近では、日本人学校の夏祭りイベントにも参加し楽しい日々を過ごしています。



RKK 本社研修記



台湾事務所 施月雯

今年4月から台湾事務所に配属となりました施月雯（シユエウエン）と申します。

5月26日から5月29日の4日間、本社研修へ行って参りました。

今回の研修は本社での座学や荷主様訪問だけでなく、新しくできた那覇港総合物流センターにもお邪魔しました。普段、あまり見ることのできない倉庫も見学させていただき物流センターの仕組みや貨物の取扱などを学びました。

また沖縄⇄台湾、運航されているMIYARABI IIの貨物荷揚げ作業にも立会いました。

現場のスタッフさんは、まるでパズルのようにコンテナを配置し、また積卸作業の速さにはとても驚きました。普段は、なかなかお会いする機会のない本社の方々とface to faceで色々な意見を交換することができ大変勉強になりました。

今回研修で学んだことを活かして、早く業務に慣れ皆様のご期待に添える様、頑張っておりますのでご指導の程よろしくお願ひ致します。



永安船務代理店

陳祈仍 (Peggy Chen)

琉球海運の台湾総代理店：永安船務代理(股)公司 台琉航路の担当の陳祈仍Peggy Chenです。初めて那覇にある琉球海運本社へ訪問できたことを光榮に思います。

以前は高雄港での荷役作業だけを見ていましたが、今回は那覇新港のMBIIに乗り込み、各デッキで荷役作業について学べた為、私たちへ依頼するクライアントに対して輸送を担う、という使命感を更に持つことが出来ました！船での荷役について細部まで理解出来たので、今後顧客の質問や要望に対してもっと緻密に答えることができると思います。

研修中はみやらびIIを利用する受取人へも訪問しましたが、以前は台湾からの荷送人へのみ連絡を取っていたので、今回話していく中で双方の要求や輸送ルートについて理解することができ、今後に対し自信も持てました。

顧客の信頼もまた将来的により自信を持っています。また、那覇港総合物流センターを見学し、今後の台湾における物流事業の普及に大変役立ちました。

改めて、研修中に訪問した琉球海運の関係会社・本社の各部署の皆様からの歓迎やご指導を頂き感謝申し上げます。夢とくらしと文化を運ぶという使命を実現するために、今後も共に協力していくことを願っています。

MORE ABOUT RKK

敷板軽量化 輸送費減へ

県貿易協・琉海・OAS
発泡樹脂製、保冷・強度優れ

「琉球海運は、県内各地の産品を全国へ運ぶために、敷板の軽量化に取り組んでいます。従来の木製敷板は、重量が重く、輸送コストが高くなるという課題がありました。そこで、発泡樹脂製の敷板を導入しました。この敷板は、保冷性能が高く、強度も優れています。また、軽量化により、輸送コストを削減することができました。今後も、さらなる敷板の軽量化に取り組んでまいります。」

発砲スチロール製パレットで重量軽減へ



人材育成や研究 琉球海運と協定
 琉球大学と協定締結
 琉球海運は、人材育成や研究のために、琉球大学と協定を締結しました。この協定は、人材育成や研究の促進を図ることを目的としています。また、琉球大学の研究成果を活用し、業務の効率化を図ることも目指しています。

琉球大学と包括連携協定結ぶ

明言深間

「本音を語る」
 国内外の物流ネットワークをつなぐ新たな物流拠点「那覇港総合物流センター」が、1日、開業した。保冷と検査、仕分けなど、物流の高度化や効率化が期待される。県産品の競争力強化、輸送コストの削減を目指す。県内への観光客増加とともに那覇港が取り扱う貨物量も増加しており、業務と付加価値を加える「副産」への期待も大きい。同社の取締役社長（琉球海運社長）に話を聞いた。

那覇港総合物流センター社長
 宮城 茂氏



中継港 世界の懸け橋に

「那覇港は、総取扱貨物量12年以降増加しており、17年には、過去最高の1,000万トンを超える見込みです。この増加は、県内産品の競争力強化や、観光客の増加による需要の増加に起因しています。また、海外からの観光客増加に伴い、荷物の取扱量も増加しています。この増加に対応するため、本センターを開業し、物流の効率化を図ります。また、海外からの観光客増加に伴い、荷物の取扱量も増加しています。この増加に対応するため、本センターを開業し、物流の効率化を図ります。」

那覇港総合物流センター 5月1日稼働

琉球海運(株)

配送品質優秀企業に選出

6月25日、F-LINE様様の平成30年度配送品質優秀企業に選出され、加工食品部門にて全国第1位に表彰されました。これからも高品質の輸送に努めて参ります。



AFTERNOON TEA TIME

「私の健康促進ツール」

こんにちは、グループ報「RYUKAI」の作成を担当しております琉球海運株式会社企画部の嘉手苅文士と申します。8月より部署移動が決まり、最後のグループ報作成となりましたので好きなことを書かせて頂きたいと思っております。

世間では健康経営という言葉が注目を集めています。経営学と心理学の専門家、ロバート・H・ローゼンは1992年に出版した「The Healthy Company」の中で、その実践を図ることで従業員の健康の維持・増進と会社の生産性向上を目指す考えとしています。

私は個人的に健康促進の一環として、パルクールというスポーツを活用しています。パルクールとは走る・跳ぶ・登る等のアクロバティックな動作で障害物を越えていくスポーツです。



当初はバク転やバク宙へのあこがれで始めましたが、10年以上経った現在は健康を維持するためのツールとして次第に考えが変わってきています。そこで、今回は基本的な動作である着地の方法をお教えしたいと思います。着地の基本を身に付けることで、日常生活での階段の上り下り等でも身体に負担をかけることなく行えるようになります。まず、①かかとは付けずつま先着地をするようにします。(かかとを付けると足首でクッションを掛けられず身体



全体に負荷がかかるため。)②膝を屈伸させ地面からの衝撃を吸収させます。(90度以上曲げると膝を痛めます。)③腕を使ってバランスを取って無事着地完了です。

この着地だけに関しても、身体に極力負担をかけない動作をしているので身体が痛くなることはありません。階段を上り降りする際やちょっとした段差を降りる際はつま先着地と、膝の屈伸を利用したクッションを意識してみてください。膝への負担軽減と、いつもよりちょっと多くのカロリーを消費できます。上る際は2段飛ばしだと尚良しです。笑(下のQRコードより着地方法の解説をご覧ください。)

今年6月には那覇市港町にパルクール専用ジムもオープンし、着実に競技人口は増加してきています。日本トップレベルのプレイヤーによる体験レッスンや、キッズレッスン等もごございますのでこの機会にダイエットや健康促進として訪れてみるのはいかがでしょうか。

琉球海運株式会社 企画部 嘉手苅



CONNECT GYM OKINAWA

住所：那覇市港町2-4-13

TEL：080-6485-6325



←こちらのQRコードから
着地方法の解説とジムの
様子をご覧ください。